

十神山



会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

☎ 692-0207
島根県安来市伯太町東母里580
TEL 0854-23-3346
FAX 0854-23-3382
http://www.y-hozon.com/
E-mail:admin@y-hozon.com

上位昇格者

名人

十一月二十二日に開催された安来節保存会代議員会を経て、平成十八年度の上位昇格者と表彰者が決定しました。
今回、二代目渡部音吉さんが絃の部で名人となられ、准名人に二名、大師範に二十名の方が昇格されました。おめでとうございます。
来年の一月十六日の唄い初め会において、免状・表彰状の授与と昇格披露を行います。



二代目 渡部音吉
絃の部 (本部道場)

准名人(二名)



大久佐講慶
鼓の部(智頭)



古本 充
唄の部(津ノ井)

大師範(二十名)

- | | |
|---------------|-------------|
| 鼓 増田登志子(本部道場) | 唄 小早川富夫(松江) |
| 鼓 宇澤千登世(本部道場) | 絃 小村顯二(松江) |
| 絃 河野美都子(石見) | 唄 西川 稔(大山) |
| 唄 永瀬誠治(加茂) | 唄 下田悦子(智頭) |
| 唄 片寄克子(神門) | 唄 井本 清(津ノ井) |
| 鼓 太田 清(宍道) | 唄 細川 清(鳥取) |
| 絃 大崎 強(宍道) | 唄 山平誠次(広島南) |
| 踊 井田生次(大東) | 唄 山崎英美(真庭) |
| 鼓 新田啓治(大東) | 唄 斉藤弘子(山口) |
| 鼓 中 孝祐(那賀) | 鼓 石岡邦宏(松山) |

(総会資料名簿順)

会員表彰者

(四十五名)

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--------------|-----------|------------|------------|-----------|-----------|-----------|------------|-------------|-------------|------------|-----------|---------------|-------------|--------------|-------------|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----------|-------------|--------------|--------------|-----------|-------------|-------------|---------------|-------------|-------------|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 岩 佐光恵(本部道場) | 青 戸 広子(本部道場) | 木 村 章(出雲) | 藤 田 順子(石見) | 坂 崎 和夫(鹿足) | 板 持 勲(加茂) | 春日久美子(神門) | 佐 藤 勉(湖陵) | 江 角 清一(宍道) | 鎌 田 千枝子(大社) | 村 上 正夫(津和野) | 西 川 暁子(那賀) | 川 西 均(仁多) | 長 原 ミチコ(浜田中央) | 小 松 茂(浜田中央) | 小 豆 沢 康枝(斐川) | 小 村 春 江(平田) | 山 崎 誠(益田) | 田 原 信 男(益田) | 久 保 スミ子(松江) | 田 中 輝 夫(松江) | 丸 田 幅 子(瑞穂) | 齊 藤 将(尾高) | 岩 本 正 子(智頭) | 香 河 義 隆(津ノ井) | 入 江 志 津子(東伯) | 大 隈 昭(東伯) | 中 島 光 夫(鳥取) | 田 子 よし子(米子) | 真 沢 洋 枝(江田島能) | 新 田 長 子(広島) | 高 次 春 雄(広島) | 藤 田 博 子(広島玉美) | 村 上 慶 子(広島中) | 橋 本 邦 明(広島西) | 赤 田 鶴 子(広島西) | 叶 原 正 則(広島東) | 谷 川 幸 夫(広島東) | 松 島 正 利(広島南) | 綱 嶋 紀 代子(津山) | 坂 本 真 由美(津山中央) | 下 井 千 年(真庭) | 持 光 アサコ(山口) | 森 一 正(伊予道後) | 大 野 忠 弘(松山) |
|-------------|--------------|-----------|------------|------------|-----------|-----------|-----------|------------|-------------|-------------|------------|-----------|---------------|-------------|--------------|-------------|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----------|-------------|--------------|--------------|-----------|-------------|-------------|---------------|-------------|-------------|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------------|-------------|-------------|-------------|-------------|

(総会資料名簿順)

新役員決定

任期 平成17年10月1日～平成19年9月30日

このたびの役員改選に伴い、新役員が決定しました。安来節がますます普及・発展するよう新役員の方々のご尽力に期待し、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

理事

青 砥 治 郎
(商工会議所)

四代目 渡 部 お 糸
(家元)

葉 山 満 輝
(市議会議員)

金 田 英 一
(本部道場)

二代目 松 尾 幸 興
(本部道場)

中 本 實 夫
(米子道場)

松 浦 保 潔
(出雲道場)

齊 藤 貫 一 郎
(益田道場)

三 賀 森 忍
(浜田道場)

古 本 充
(鳥取道場)

高 次 春 雄
(広島道場)

丸 田 金 時
(石見道場)

野 坂 亮 若
(岡山道場)

指導部員

安 達 友 吉
渡 部 音 吉

原 代 文 夫
上 立 安 夫

足 立 幸 偉
佐 々 木 市 稔

越 野 吉 夫
榎 野 善 夫

須 田 茂 寛
前 嶋 弘 一

石 川 邦 宏
石 岡 弘 一

安 達 友 吉
砂 川 清 之

出 雲 正 之 助
富 田 徳 之 助

渡 部 音 吉
小 泉 宣 明

伊 藤 芳 明
松 村 益 男

野 坂 守 男
原 田 淳 男

足 立 久 男
矢 倉 哲 男

初 田 久 男
浜 崎 正 孝

渡 部 音 吉
一 郎 夫 勤

資格審査員

二代目 安 達 順 吉

野 坂 亮 則

四代目 仲 前 治 長

監事

糸 賀 忠 義
(本部道場)

山 根 信 重
(斐川支部)

支部廃止

〈新見支部〉
支部長 渡 辺 隆 司

〈金城支部〉
支部長 榎 田 修 身

安来節ミニライブショー

毎週土曜日 午後1時・3時2回公演
入場料 1,000円

正調安来節銭太鼓教室

- ◆ 第1・第3水曜日・土曜日 4時30分～
- ◆ 月謝・月2回けいこ 5,000円
- ◆ 入会金 3,000円
- ◆ 安来節保存会関東支部 浅草道場
(浅草雷門くぐり左折徒歩30秒)

〒111-0032 東京都台東区浅草1丁目18-3
TEL・FAX 03-3847-0215

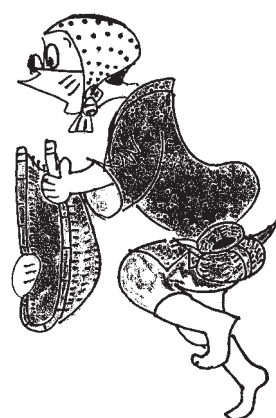
正調安来節銭太鼓・製作・販売
3,500円(送料別) Tel・fax 048-296-1328



正調安来節銭太鼓
師範 阿部洋二

創部10周年(平成18年11月)

東京支部入江



安来節保存会
東京支部

日本人と桜の花

並 河 健 蔵

私たちが日本人にとって花とだけいえば、大方の人々は桜を思い浮かべ、桜を日本の花の代表としてあげるだろう。

古来、日本人は「人間の短い一生」を潜在意識の中において、桜の花を歌いついてきた。春になると桜の花が咲き盛り、容赦なく時は過ぎて、再び花の季節が訪れる。このような自然の循環の中にあつて、あてやかな満開の桜に感嘆し、散り際の潔さに、また散りゆく花の哀れさに、自らの心象と世の移り変わりの儚さを感じとってきたのである。私たちが若い頃によく唱った「同期の桜」も、戦争という暗い時代のなかで、そのような想いの典型であった。

そこで古代の人々は、どのように桜を歌ってきたのであろうか。まず西暦八世紀の奈良朝時代の歌集「万葉集」では、桜より梅の花が多く歌われており、桜も山野に自生しているのを眺めて歌ったものであるという。

ところが平安朝時代になると、都大路をはじめ宮中や離宮などに桜が植えられ、花見の宴も賑やかに催されるようになった。その時代に編まれた古今和歌集では、春の花

の中で、梅よりも桜が多く歌われている。桜の花にちなんだ和歌をあげてみよう。

・久方の光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ 紀 友則

「大空の光はこのようにのどかに照らしている春の日であるのに、どうして桜の花はあわただしく散るのであろうか」というのである。

・世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし 在原業平

「世の中に、もし桜の花がなかったならば、春の我が心は落ち付いて、のどかなものであろう」と詠嘆している。

時代は三〇〇年もくだつて、西暦十三世紀に、後鳥羽院の命によつて作られた新古今和歌集で歌われている中で、西行法師の代表的な作に、次の和歌がある。

・ねがはくは花のもとにて春死なむその如月の望月のころ

西行法師は、後鳥羽院に武士として仕えていたが、若くして出家した後吉野山に草庵を結んだり諸国を旅した。西行は自然の清らかな美しさに魅せられ、とくに月や桜を愛して、和歌をよんだ。

「如月の望月」は、陰暦二月十五日で、釈尊の命日に当たり、折から桜の季節となり、西行法師は、その願い通りに文治六年(一一九〇)二月十六日に七十三歳でこの世を去つた。

現代に生きる日本人はどのような思いで、桜を見ているのであろうか。

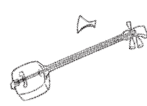


足立 稔 准名人

昭和四十三年に初めて資格審査を受けて以来三十七年になります。実はそれより一年程前に国尾先生の所に誘われ、習い始めたのですが、あまりにも難しいのと、声が出ないので根を上げて逃げ出してしまいました。折角始めかけたのだから続けるようにと、先生からの言い方で、乗り気のないまま再度稽古に通うようにな



私と安来節



伊藤 芳男 准名人

昭和四十二年に安来節保存会宗道支部に入会させて頂き審査を受け、唄一級になりました。昭和四十六年には宍道町青年団の郷土芸能部門で島根県一位になり、その年の十一月に東京都の日消ホールにて、全国大会に出場、四位入賞でき、皆で喜びを味わいました。総数二十名のメンバーで種目、安来節の唄、絃、鼓、男踊りは一人女踊り。銭太鼓は現在もその当時のまま継続しています。

昭和四十七年には師範に昇格させて頂き今後、自分の勉強と後輩の皆様に姿、形を変えないで伝えていく使命があると強く感じ、斐川で同志を集め練習を重ね、その翌年、昭和四十八年六月十日には斐川西小学校で安来節保存会斐川支部設立、結成され、感謝状を頂

り、憶えて歌えるようになるにつれ段々と面白くなり現在に至っております。

安来節は百年に及ぶ歴史があり、その間、沢山の優秀な先輩方により、不要なものは削り、必要なものは付け加えられ、今の形が引き継がれて来ていると思います。

過去の名人名手が築かれた高度なものが今日の安来節の名声を得ていると信じます。個人的には何でも「中央に右ならえ」ではなく地方民謡の素朴さを失わず、安来節本来の伝統を直視して先人方の意に背かないよう努力したい想いです。

き安来節保存会の一員になれたなと思えました。

昭和六十年、唄・大師範に、平成十二年指導員認可、平成十二年、唄・准名人、平成十六年、銭太鼓・大師範を受ける事が出来ました事は、素晴らしい諸先輩方に出会い数々の経験をし、勉強をさせてもらいながら継続できました事、感謝にたえません。私は不器用で何事も一つずつしか出来なかつた。一つの種目を長く続け、姿、形を変えないで続けていたから良かったのだなと思います。銭太鼓は仲間と出会いふれあいを大切に、ボケ防止、リハビリにと頑張っています。

最後に師範研修で教わった事は温故知新(古きをたずね、新しきを知る)。師範たるは後輩の皆様方に姿、形を変えないで伝えていく使命があると自分によくよく言い聞かせながら、安来節保存会の指導員の一人として皆様の為にと頑張つて行きますので、今後とも会員の皆様、御指導、ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

会員の声 コーナー

踊り覚え書 その2 「笑について」



今、笑いが見直されている。曰く「笑いは病気の治癒力を高める妙薬である」とし、医療の現場で「笑い」が必要とされる時代となって来た。笑いは人を幸せにする力があるとし、帝京平成大学ではお笑いビジネス界のトップ、吉本興業と提携して、「笑い学講座」が開講して四年が経過している。

また、擬音・擬態語研究者、山口仲美氏によると「この三十年間最も変わったのは「笑い系」が増えたこと。「ワーハッハ」「エヘヘ」「クックク」などは昭和四十年代の擬音語・擬態語辞典には掲載されていない。「昔は声を立てずに笑うことが重んじられたけれど、今は大っぴらに笑うことが認められた。現代は笑い奨励の時代であり、声を出して笑える社会は決して悪くない」という。

翻つて考えるに、日本には狂言、川柳、落語等笑いの伝統が数多くあるのに、なぜ現代人は笑いの力を忘れてしまったのかも言われている。それは笑いを制限する歴史があったからだと思う。明治以降、西洋科学技術の導入に合わせ西洋文化一辺倒になり、軍国主義となつてから「男は一生に三回だけ笑うんだ」「日本男児というものは笑つてもいけない、泣いてもいけない」と言われてきた。こうした閉塞化の状況に風穴を開け、人の生き方、社会の仕組みのあり方を再発見させる笑いの効用を考える事が大切である。一九九八年以来七年連続で自殺者が三万人を超えているニッポン。

負の社会現象に対峙できる笑いをめざして笑いの踊、どじょう揃い踊りもその一翼を担いたいものである。

東京支部長 棚橋 保

平成十七年

安来節全国優勝大会

優勝

(師範熟年唄の部)



生きる喜び

益田支部

岩川 信子

ある日主人が「近くに安来節の教室があるそうだから行ってみたら」と言つて一緒に行ってくれました。一節からがなかなか唄えず苦労しました。

そして応援してくれた主人も早く亡くなりました。でも良き先生、良き友達にも恵まれ、落ち込んだ私を励まし、助けて頂いて今日まで唄い続ける事ができました。

そしてこの度、唄い続けたいお陰で夢のまた夢がやつて来ました。今年初めて出た安来節全国優勝大会の熟年の部に出場したのです。信じられませんが、でも今、手元にある優勝旗を眺めながら今までの想いが次から次にと浮かんで来ます。心から周りの人に感謝しております。一生の思い出です。これからも唄い続けて行くつもりです。本当にありがとうございました。

京都南座特別公演

平成十七年十月三十日に京都市にある南座にて安来節京都南座特別公演が開催されました。歌舞伎の舞台で民謡が行われるのは初めての事で保存会の歴史に残る一日でありました。

京都南座公演を終えて

家元四代目 渡部お糸

千年の都、京都にもみじが彩りを添える季節になりました。都大路に咲く菊花の大輪も、その姿を誇り、芳醇な香りを漂わせております。

この度は、伝統ある京都南座にて、安来節を披露させていただきました。皆さまの御蔭と深く感謝申し上げます。

…全国に名を馳せた出雲の

女性：一見おとなしい出雲の女性、しかし、一旦「たたら」の火が胸の中に入ると、とてつもない偉大な力を発揮する、その代表的な方が、四〇〇年前の出雲阿国であり、一二〇年前の初代渡部お糸です。

阿国さんは今日日本を代表する歌舞伎の元祖ですが、同じ京都から第一歩を踏み出せた事などを考えると、非常に感慨深いものがございます。港町安来に生まれた安来節は、私たちの人生が込められております。言い換えれば、人生を表現するに最もふさわしい唄、それが安来節だと思えます。その魅力をもっと多くの人に伝えたい、それが私の使命だと思っております。



昼夜二回公演という長丁場ではございましたが、御出演いただきました皆様方の熱い愛情に支えられまして、観客を感動と興奮の渦へ導いて下さいましたことを、大変嬉しく思えます。「安来節を世界に」を旗印の下に、皆一丸となり、精魂込めての公演を無事終了いたしました。今回の南座公演は、安来節発展の第一歩を飾るにふさわしい最高の舞台でした。

京都南座の舞台に立つて

踊 准名人 一字川 勤

京都南座公演に出演させていただき感謝いたしております。

「安来節阿国を生んだ国の唄」と読んだ俳句を十五年前にたまたま手に入れることが出来て、現在私の道場に掲げています。この俳句のように安来節が出雲阿国を生んだんだ！と自信と誇りを持ち、全国の皆さんに安来節とどじょうすくい踊りを広める為に日夜努力を致しております。

この度、出雲阿国さん所縁の地、京都南座の舞台に出させて頂き、舞台上に立つた時にあの俳句を思い出し胸が熱くなりました。

安来節南座公演が大成したことには家元四代目渡部お糸さん始め、出演者の皆様方ひとりひとりの力と出雲阿国さんのおかげからの応援があったからと私は信じております。今後、私自身もっと芸を

安来節京都南座特別公演を終えて

岩崎 美智子

御来場のお客様に感謝！夢は見るものでなく、叶えるものと、良く耳にいたしますが、夢の一つであります。舞台公演に参加させて頂くチャンスを与えて下さいました。

家元を始め大先輩の先生方と一緒に初めてで、公演では私に与えられた事を指示通り一生懸命する事を目標にし、大勢の皆様からのお力添えを感じながら終える事が出来ました。フィナーレでの感動は言葉で表わせない喜びでございます。また客席からの感想を聞かせて頂き



磨き出雲阿国さんに負けないよう頑張りたいと思えます。これからも京都南座の舞台に出演させて頂いたことを誇りに持ち、より一層安来節保存会発展の為に精進させて頂きます。ありがとうございました。

ましたので述べたいと思います。京都在住のお客様「まるで島根を旅している、短い時間で大きな感動」

・島根を離れ四十年、関西在住のお客様「故郷の情景や四季を目で、音で感じる事ができ、なぜか涙が出てきました」

・鳥根在住、ツアーでのお客様「地元ではいつでも手近に見れるとの思いで、会場へ足を運ぶ事がなく、京都から改めて故郷の文化、芸能を堪能する事ができ、構成の良さもありフィナーレまで目を離す事なく楽しみました」

社日小学校訪問

平成十七年九月十三日午後二時から四時までの二時間、安来市内の社日小学校で五年生四十六人を対象に安来節の授業が家元四代目渡部お糸(唄)、渡部孝夫(絃)、吉野和夫(鼓)さん方により行われました。

三味線講師

渡部孝夫

社日小学校のみなさん、こんにちは。皆さんの感想をさつそくいただきました。ありがとうございます。

私は皆さんの感想文を読んでも大変感動しました。三味線の事や鼓、歌い方などを説明しましたが、皆さんは大変よくおぼえていましたね。そして、一生懸命に私の話を聞いていて理解してくれている事が、私はお話をしている時に感じました。

歌声と三味線や鼓の音に、初めて出会った時の感想を素直に書いていました。その感じた事を読んで私は感動して、もっと三味線をがんばって上手にならねばいけないと思います。皆さんからたくさんパワーをもらっ

私は幸せです。

皆さんも書いていたように、生の安来節の演奏を聴く機会は大人の人にもあまりありません。ですから演奏を見てもらえたらもっとたくさんの方に安来節の良さがわかってももらえらると思っております。こんな気持ちでいつも演奏してまいります。

お祭りの楽しさや、名画を見たりするときの感動を聴いて音楽を聴いた時の心地よさ。自分が感じるこんな感動は、長い人生にたくさん必要なのだと思います。

これから皆さんは、どんな感動でもキャッチ出来るように良



い所を見逃さないように努力をしてください。そして安来節を愛してください。感想文本当にありがとうございました。

私はお抹茶が大好きです。石川君のお点前は大変良かったです。おしいいただきました。ありがとうございました。そして郷土芸能を採り上げて頂いた教師の先生方に心から敬意と感謝を申し上げます。

追伸、三味線の伝来は、今から約四四五年前の室町時代です。そして沖繩を経て大阪の堺に着き、日本独自の工夫された楽器として発展しました。

社日小学校五年一組

野坂祐未

暑い中私たちのために安来節を教えてくださいありがとうございます。私には、今まで安来節の本当のすばらしさを知りませんでした。でも、そのすばらしさをお糸さんたちに教えていただきました。まだ、あまり安来節の事はよく分かりませんが、これがこれからのこともっと勉強して安来節の歴史などが分かるようにがんばります。これからも、元気でがんばってください。

社日小学校五年二組

勝部泰子

教えてくださいありがとうございます。こんなにじっくり安来節のことを考えたのは、私は初めてでした。お糸さんやよしのさん、わたなべさんたちに教えていただいて、初めて知ったことが、たくさんありました。たとえば、つづみを一人でやるのは、安来節だけとか、三味線、つづみ、唄をべつべつと一緒にひいて、その調和が安来節になるということです。聞いていても、その調和がすぐきな安来節をつくっていることがわかりました。本当にありがとうございました。

ひびけ歌声世界の空へ

支 部 情 報

米子支部三十回記念発表会

米子支部長
三代目 砂川 清



米子支部は、平成十七年四月二十九日に米子市錦町一丁目ふれあい里・大ホールにおいて、午前九時三十分から午後四時まで七十人の会員が参加し、節目となる発表会である。二級から准名人まで日頃の練習の成果を披露いたしました。

会場から声援の中、唄、絃、鼓、これからは、先輩から受け継いだ熱意、努力、伝統を基に安来節の活性化を図り会員増に努めていきたい。

踊りのほか会員有志による銭太鼓、傘踊り、隠岐民謡など熱唱、熱演が続いた。米子支部は、一九四八年にスタートし、一九七六年に発表会の前身となる優勝大会が始まった。当時各班対抗の団体戦もあり盛況であった。その後平成十年から発表会として続けています。特に今回は記念行事として米子ブロック並びに関係の深い近隣の支部から支部長さんを始めとする皆さんによる友情出演で華を添えて頂いた。続いて特別ゲスト、二代目松尾英興・二代目高山保子社中による朗々たる安来節、歯切れの良い唄声に合わせた銭太鼓、華麗な踊りを繰り広げ会場を沸かせた。続いて会員の大師範、准名人の出演で締め括った。

支部結成三十一年



津山支部長
山下 弘美

森候十八万石の城下町、西の小京都と呼ばれる歴史の街、津山に縁深い出雲地方の庶民生活から生まれた格調高い正調安来節に魅せられた愛好者が集い昭和四十九年三月十五日津山支部が発足。

故二代目出雲愛之助先生、二代目安達順吉先生、野坂亮利先生、諸先生方の御指導を仰ぎながら早や三十一年になります。平成十二年十一月支部二十五周年記念大会を特別出

演、野坂亮利先生、出雲正之助一行をお招き盛大に開催しました。会員も少々高齢化の波間を遊泳していますが、第二の人生の生き甲斐に安来節を生涯教育の一端としてその習得に研鑽を積んで会員の資格も順調に昇格しているところ。活動の内容は、支部研修会、審査会、全国大会、地区の文化活動、ボランティア慰問等、特に毎年津山日本音楽祭、三年毎の津山国際総合音楽祭に安来節保存会津山支部として出演し、安来節の魅力伝えております。

新会員獲得に支部一丸となつて努め、相互の親睦を図りながら支部拡張に全力を注ぎたいと思っております。御支援、御指導宜しく御願

国立劇場「民舞の祭典」に出演して



関東支部長
若岑 礼

踊り手にとっては夢の大舞台である東京の国立劇場大ホールにおいて、八月五日(金)の十二時より日本民謡協会主催の第十回民舞の祭典として、全国各地の民舞連の団体四十三組のグループによる「民舞華の競演」が開催されました。二十五組目は安来節保存会

踊り手にとっては夢の大舞台である東京の国立劇場大ホールにおいて、八月五日(金)の十二時より日本民謡協会主催の第十回民舞の祭典として、全国各地の民舞連の団体四十三組のグループによる「民舞華の競演」が開催されました。二十五組目は安来節保存会

支部だより



関西支部長
梅若 朝啄

生まれ育った故郷を離れて生活を始めてから郷土民謡「安来節」が懐かしくなったのが民謡の世界に入る動機となった。三味線から始めようと、まず基本を知り、身に付けておかないと人に笑われると思い、東京の杵屋流長唄三味線を習い、その後好きな民謡を、それも全国民謡を本格的に教わり徹底的に稽古に励んだ。

生徒を持って指導を始めて

四年が過ぎて昭和四十九年キングレコードから「安来節・貝殻節」でプロデビューしたのがきっかけで大阪で安来節教室を開設、昭和五十七年に保存会関西支部として認定を受け保存会の一員となり、その後立派な指導者が続々と育つて教室が増えて参りました。

今では保存会最大級の支部にまで発展いたしました。指導者達と共に頑張ったのが安来節を関西に広める大きな原動力となったと自負いたしております。

私自身、本場出身の人間ですが、保存会の一員ではあります。一方、遠く関西の地また関東の地そして全国の民謡家達との交流も多く、「安来節」を「保存会」を客観的に見ることもできます。

都会では安来節といえは「どしようすくい」と思われ、それも下品なイメージが無くもないのが残念、唄・三味線は案外関心度が低いのがとても寂しく思います。

今後は安来節の「唄」・「三味線」をよりメジャーなものにして行くことが望まれ、全国で愛唱者を増やして行くには「温故知新」、頭をできるだけ柔らかくして、より「音楽性を高めたもの」にして行き楽譜も理解する事でどんどん視野を広めて行く事が重要と考えます。

「規制緩和」も望むところです。現在あまりにも審査基準に規制が多くて演技面において「ゆとり」の味が出る「ま」で磨きつくせない事もあり面白さを減少させずメリット面が生じて来てはならないでしょう。



東支部の「正調安来節 どりょうすくい」で、私の唄と三味線二名、鼓、太鼓という生伴奏に合わせて会員十六名の踊り手達がリズムにのり、足並みを揃えて軽やかに踊りました。踊りの後半からはお客様達の拍手が起り、最後にはまた割れんばかりの拍手大喝采となり会場全体が一体になった感じで、私たちも感激と喜びで胸がいっぱいになりました。

どしようすくい踊りのテンポは今流行のサンバのリズムと相通ずるので若い方々にも新鮮な感覚で受け入れて頂

けたと思います。今後とも関東一円にもっともつと安来節の和を広げて、なお一層安来節保存会の会員増強を目指して頑張つて参りたいと思っております。

大小鼓製造卸販売



住所：島根県松江市馬潟町360-13
電話・FAX：0852-37-2033
E-mail：ks36013@web-sanin.co.jp

※通信販売も致しますので、お気軽にお電話ください。修理、下取りもご相談ください。

安来節全国優勝大会

記録ビデオのご注文は!!

1991年～2005年の毎年3日間の競演

高品質な映像
迫力の音質



各¥5,500 (送料込み)
踊り編・銭太鼓編・各級ごとにご注文下さい。

- あの興奮をもう一度…! 毎年8月に行われる安来節全国優勝大会の記録ビデオです。あなたの晴れ舞台、映っています。
- 唄や踊りの手本に最適です。
- 銭太鼓デモンストラーションバージョンもあります。

ご注文お問い合わせ

中四国映像製作社連盟加盟

ヴィエルシー株式会社



〒690-0012松江市古志原2-9-60
TEL (0852) 27-7700
FAX (0852) 26-8132
E-mail vlcn@viola.ocn.ne.jp